

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年11月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300971
法人名	なごみ福祉会
事業所名	グループホーム青い鳥
所在地	鹿屋市古江町796-1 (電話) 0994-46-3056
自己評価作成日	平成28年9月9日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成28年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 入所者の中には歌や踊りを好きな方が多い為、毎朝歌を唄い元気に1日をスタートしています。②入所者の高齢化で身体機能の維持については個別的に歩行訓練や立ち上がり訓練を行い日常生活に支障がないように配慮している。③入所者が清潔な空間で生活できるように掃除を行ない、特にトイレは床、手すり、壁まで清潔を保っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは漁港に近く、海の見える居室もあり、民家が立ち並ぶ住宅地の一角に建てられている。、同敷地内には法人が運営する有料老人ホームとサービスも併設され、利用者同士の交流も日常的に行われ馴染みの関係も築いている。

管理者は自らの親の介護経験から生まれた思いを職員全員で共有し、「入所者を自分の親と思い優しく接し、地域の中で生き生きと暮らせるように支援する」を理念に掲げている。迷いや不安が生じた場合など常に立ち戻り、確認を行っており統一したケアに取り組んでいる。

お茶会やフットマッサージなど地域に向けたサロンも開催している。年に3回行う利用者と地域住民との交流会では民生委員に地区ごとに声掛けを貰い、毎回沢山の参加者があり、利用者にとって大きな刺激と楽しみになっている。

運営推進会議は多方面からの出席者があり、ホームが抱える課題も行政や市会議員などに繋ぎ、解決策を見出している。ホームの立地条件として津波の心配もあり、会議の中で話し合わせ合同訓練の方向に導いている。

職員は離職者も少なく、管理者を中心にキャリアや年齢層も幅広く、何でも相談し合える気軽な関係が出来ている。外部評価を通じたか家族のアンケートからも多数の感謝の声が挙がっており、穏やかに過ごす利用者らの表情からも職員との信頼関係の深さが伺えるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「入所者を自分の親と思い優しく接し、地域の中で生き生きと暮らせるように支援する。」	管理者を中心に、利用者を自分の親と思い接する事を理念に掲げている。日々のケアで都度、理念を振り返り確認を行いながら、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントへの参加。オレンジサロン、入所者との交流会を開催することで地域に溶け込んでいる。	年に3回、ホーム独自の外部交流を計画し多数の地域住民が参加している。気軽に立ち寄れるでサロンも展開しており、近隣の保育園児との七夕交流や運動会の見学なども行っており、年間を通して、双方で交流の機会を多く持てるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	オレンジのまど」の相談窓口を設け、地域の高齢者の不安や心配事が少なくなる様支援している。また、交流会で認知症への理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	28年度より委員を増やし意見を頂いている。花見を行う近くの公園の出入り口の拡張工事終了した。訪問診療時起きるトラブルも市や議員さんに相談できた。今までに保育園との七夕交流、運動会、お遊戯会の見学、学園の生徒との交流も恒例行事となっている。	市会議員や消防分団など多方面から出席者の幅を広めている。医療との連携やヒヤリハット報告など都度、ホームの現状をオープンにし、毎回活発な意見交換の場になっている。海も近く津波も予測される課題を取り上げ、話し合いの結果、本格的な合同訓練も計画されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議で小中学生との交流が実現できないことを報告すると、市から参加されていた職員が必要な機関に連絡して下さりすぐ実現できた。又業務に関し不明な事や問題が発生したら先に市に相談している。	毎回、運営推進会議への出席もあり現状への理解は得られている。困難事例等の相談も親身に対応してもらい良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束関係の研修に職員が参加し、職員会でも勉強会を開き、身体拘束については職員全員が良く理解している。センサーやコールマット、鈴を利用することで幾分かリスク解消され拘束は行っていない。	具体的な事例を用いた研修や勉強会の充実を図り、日々の申し送りや毎月のミーティングでも身体拘束防止を繰り返し話し合い、利用者の安全確保や自由な暮らしの支援を実現している。管理者は現場での気付きは都度、注意を促し、利用者個々の状況や行動に注意を払い見守りを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待は絶対ダメ！」は職員全員が良く理解しているが、さらに研修に参加してホーム内で勉強会を行なう。入所者にあざがあった場合は、その原因を報告、確認し虐待がおきない様にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年この制度を必要とする入所者がいて、裁判所に出向き相談した際職員で勉強したが、手続きが完了しないうちに死亡され制度利用には至らなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時に契約を交わす際必要な説明をしている。また、入所に関し不安なことがあれば相談して頂き、出来る事があれば協力し、出来ない事は納得して頂く。又、契約違反で解約の対象と感じたら再度契約内容を説明し、市に報告してトラブルにならないように注意している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に置いているが活用されたことはない。家族が面会に来られた時に色々な報告等するが、その時家族の意見や要望を聞き、改善したりサービスに繋いでいる。</p>	<p>利用者の思いは日々の暮らしの中でくみ取り、家族とは面会時や運営推進会議の場、家族会、ホームの行事等での対話を通じて意見や希望の把握に努めている。転倒や滑落などリスクの高い利用者も多く都度、現状報告を密に行い信頼関係を得られるように努めている。家族向けの通信の復活を検討している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>いい意見や提案はすぐに反映させてサービスや質の向上に努めている。(申し送りノート工夫や薬管理等について)</p>	<p>月1回のミーティングでは職員が毎日の気付きをノートに記し、議題として取り上げており、サービス向上に繋げている。管理者は勤務体制や人間関係など職員が働きやすい環境作りに気を配り、何でも言い易い雰囲気作りに努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格取得の際は給料に反映し意欲的に働きながら次のステップに繋げるように整備している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人職員は、勤務しながら基本を学べるよう管理者が指導している。また、職員は系列の施設で実習したり、会社内外の研修を通じてレベルアップを図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>協議会の研修やイベントに参加してもらい、同業者と交友関係を深められるようにしている。又分からないことがあれば相談し意見を仰いでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所するに当たり一番心配なことや病気等について良く確認し、落ち着かれるまでは家族の面会を多くし、職員と会話の機会を増やし良い関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が心配している件を良く聞きその場で解決できることは解決する。必要な連絡を取り合いながら信頼関係を深める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族は何が一番気がかりで心配なのか確認して対応する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、たたむ等。台所片付け、テーブル拭き、出来る家事はお願いします。又他の入所者が一人で立ち上がり危険なときは大きな声で教えてください。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の面会時はもちろんだが花見、花火大会、敬老会等入所者の満足度を高めるために家族と話し合い本人を支えていけるよう支援する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	良く話しに上がる人の写真や記念の写真等あれば届けていただく。隣接する施設に郷里の知り合いが来る日は逢いに連れて行く。	馴染みの知人に会いに同敷地内のデイサービスへ出かける事もある。近くの寺に参ったり、自宅や墓参りなど家族の協力も得ながらこれまでの馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ気の合う人がいるので、話が出来るところに席を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話で必要な情報交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向は聞き、個別的に検討している。	入所時に比べ元気になった利用者が多く、大半が思いを伝えられている。入浴などの1対1の場を大事にしており、思いに寄り添えるように全員で取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族や面会に来られた友人等から在宅生活について情報を得る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活について強制せず、のんびり生活していただく。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会で介護のあり方や工夫等話し合い、家族に相談して計画書を作成している。	利用者本人や家族の意見要望を踏まえ、主治医や職員の意見を反映して詳細な介護計画書を作成している。計画作成担当者はサービス担当者会議など家族の出席を調整し、主治医を交えた話し合いの場を大事にしている。必要に応じて随時見直しを行い、変化がなくても定期的な見直しを6ヵ月ごとに行って、常に現状に即した介護計画になる様に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に記入し、さらに話し合いが必要な場合は職員会で取上げるように用意されたノートに記しておく、計画の見直しに活用する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に必要なサービス内容を工夫して提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児、小中学生、地域の方々、安全を守る消防団の方々に守られ、交流を図りながら楽しく暮らしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	7名は希望のDrが診察しているが、2名は想定外のDrが派遣され、説明不足で連携が取りにくく不満がある為市の職員に相談している。	訪問診療や訪問看護ステーションとの契約で看護師の健康管理を受ける利用者が居る。主治医との連携ノートを作成し、利用者毎の詳細な健康状態の把握に生かしている。常に適切な医療を受けられるように、管理者は医師との良好な連携保持に努め、日々の努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の看護師とはうまく連携が取れているが、訪問看護とは一度トラブルがあった。現在は修復しよい関係が保たれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院されると職員は交代で面会して励まし、看護師から病状を聞いている。入所者も一緒に寄せ書きを作り、早く退院できるように病室に飾り励ましている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の確認書も頂いているが、必ずしもその通りに行くものではないと思う。又Drや看護師、家族と連携しながら家庭的な雰囲気の中で温かく送りたい。	重度化した場合におけるホームの指針を文書化しており、入所時に家族に説明し、同意書を交わしている。これまでに看取りの経験もあり、職員も不安なく臨めるように研修を行っている。段階に応じ、医師の指示のもと全員で方向性を共有し、ホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。家族の協力も大きな力になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いざとなれば自信はない。9月に緊急時の対応や蘇生法の研修予定		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災については本書や分団と共に訓練を行い職員も対応できるが、津波等についてはマニュアルのみで訓練していない。運営会議で何回も合同訓練をお願いしている。</p>	<p>年2回消防署立ち会いの避難訓練を行っている。緊急連絡網には地域住民や消防分団の方も組み込協力体制を構築している。運営推進会議で都度、話し合われていた津波想定の手訓練が予定されている。災害に備えた備蓄の充実も検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーは保たれているが、馴れ合いから言葉使いが気になる職員がいる為、その都度注意している。	管理者は、名前の呼び方や羞恥心への配慮、日常業務でおろそかになりがちな言葉使いや対応などで気づいたことは都度、改善を促し、サービスの質、向上に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者が自分の希望を言えるように、入所者1人に1名の職員を担当とし、相談しやすい環境にして話を聞き自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりを優先しなければならない時と自由に過ごす時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時、食後の清潔や整髪等毎日実施している。また、1日おきの入浴で清潔にしているが洋服も入れ替え楽しんでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在一緒に調理場に立てる方はいないがお盆拭き等、座って出来る事は手伝って頂く。食事はその方によって刻みやミキサー食にして食べやすく工夫している。	献立はその日の食材を使い、職員の力量で品数も多く、栄養豊かな食事が提供されている。利用者は個々に応じ刻み食などにしたり、時間も個々のペースで味わっている。誕生日や行事食にも趣向を凝らし目先を替え楽しんでいる。季節により干し大根やつわむきなども手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	細かいカロリー計算はしていない。揚げ物は週に2回程度とし野菜を多くしようとしている。水分はお茶、麦茶、OS1を交互に飲んで頂き、毎日摂取量を記録し制限範囲に抑えたり、必要な水分を飲ませている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で磨ける方にはお願いし、出来ない方には部分的に支援している。寝たきりの方には歯間ブラシ等も使い清潔にしている。必要時歯科医に依頼する。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	車椅子の方には起立訓練を毎日行いトイレでの排泄が出来るように支援。排泄の失敗がない様要望があれば早急に対応している。夏場はリハビリパンツから布パンツに戻す方もいる。経費削減には常に配慮している。	寝たきりの利用者を除き、全員が日中はトイレでの排泄を支援している。個別の排泄チェック表を把握し、サインの観察や早めの声掛けで失敗が少なくなるように職員間で連携を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	9月に看護師の勉強会で便秘について勉強会があった。食事は繊維を多く取り入れている。運動は音楽に合わせて身体を動かしている。(歩行訓練含む)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は全員介助が必要なので、希望時間に自由に入っていただく事は出来ないが、入る順番は好き順番を選んで頂く。湯船にはゆっくり浸かってもらう。	重度な利用者には2人介助で対応し、陰部洗浄などをしっかり行い、常に感染症に気を配っている。冬場の温度差には特に注意し暖房で適度な温度を保持し負担感の軽減に工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前と違い合同の体操時間を減らし、個別的に体操することで一人ひとりの自由時間は多くなり、自由に休んでいる。こまめに温度調整してゆっくり休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての薬に関し、全職員が周知しているとは思えないが、主な症状やそれに関する薬や副作用については、最初で説明している。ゾロ製品が多く戸惑うことがある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたむ係り、干す係り、お盆拭き、テーブル拭き等役割が決まっている。涼しくなり海まで出かけ、外気浴することも多く楽しみにされている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望で散歩には出ている。花火や運動会、お遊戯会、買い物ツアーは家族、ボランティア、民生委員さん等の支援で出かける。	身体状況や気候を踏まえて、近隣の公園や海沿いの散歩を取り入れている。年間行事には量販店での買い物ツアーや夜間のイルミネーション見学など多彩な外出が組み込まれている。家族やボランティアの協力の下、外気に触れめりはりのある生活が出来るように職員、一丸となり取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>年に1回買い物ツアーがありその時は個人にお金を渡し好きなおやつを選んで頂く。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は必要時かけて話していただくが、手紙はかけなくなって中止した。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間では皆が気持ちよく過ごせるように、室内の温度やテレビの音に配慮している。又散歩に出かけた際、野の花を摘んできて飾っている。</p>	<p>利用者が一日の多くを過ごすダイニングは対面キッチンになっており見守りに配慮した造りである。テレビも2台設置され気兼ねなく、好みの番組を楽しんでいる。朝夕や食事の時間は音楽を流し、ゆったりとした共用空間である。掲示の写真や作品からも利用者の日常生活が伝わる工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間、食堂は気の合う仲間と隣り合わせに席が設けてある。トイレやお風呂はプライバシー保護に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>早くから入所されている方方については家族がス綱胃の整理をされる為、面会時もゆっくりくつろげるようにしてある。</p>	<p>家族の面会も多く、各居室にはホームで準備したソファーが設置してある。家族写真や愛用品などを持ち込み、自宅の延長上を感じ取れる居室になっている。家族の了解を得て、センサーマットや鈴でリスク管理を行っている利用者もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレは手すりが取り付けられてあり、安全に移動できる。又貼紙等でトイレの場所が分かりやすい様に大きな文字で使いたれた言葉で書いてある。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない